

2025年度
尚絅学院中学校
第Ⅰ期入学試験問題

国語

注意事項

- 1 「はじめ」の合図があるまで問題の表紙を開かないでください。
- 2 決められたらんに受験番号のみを書いてください。
- 3 解答は必ずそれぞれ解答用紙に書いてください。
- 4 次のような場合は、手をあげて監督^{かんとく}の先生に知らせてください。

印刷が見えにくい場合

問題用紙や筆記用具を落としてしまった場合

なにかわからないことがある場合

受験番号

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私立清瑛学園中等部の一年生の「俺」は、小学五年生を対象にした学校説明会で配付する学校紹介のプリントを、志鳥くんと話し合って作るよう、担任の藤町先生からたのまれた。説明会当日、「俺」と志鳥くんは自分たちで作ったプリントを持って参加者を待ち受けている。

プリントのタイトルは「清瑛学園中等部の日」。とある生徒の学校生活を、朝から夕方の時間の流れにそって紹介したものだ。登校の様子から始まって、朝の会、一く四時間目、昼食、昼休み、五・六時間目、帰りの会・清掃、放課後、下校で終わる。つまり写真と文字によるタイムライン。

俺がスマホで撮った写真を、学校のパソコンを使ってレイアウトしたあと、志鳥くんが解説のコメントを打ちこんでいった。

「チャイムが鳴る前に着席しましょう。気づくとチャイムは鳴ってるものです」

「どういう順番で指名されるかは教科ごとに違います。『今日は二十一日だから二十一番、と思わせといて、二十一で三番のひと』なんて言う先生もいます」

「部活があるひとはそれぞれの活動場所へ。ないひとは教室や自習ルームに残ったり、ぼーっとしたりしてもいいです」

ちなみに昼休みの写真には、中庭の例のベンチでくつろぐ志鳥くんが写っている。ベンチが陽だまりにある時間帯を選んで撮ったのは、俺のこだわりだった。

「すごく暑い日と、すごく寒い日以外はここにいます。いちばんお気に入りのスポットです」

授業中の写真も必要だったから、藤町先生にあらかじめ相談して、国語の時間に撮らせてもらった。

「学校説明会で配るプリントに載せたいので、写真を撮らせてください」「協力してくれるとうれしいです」

ふたりで教壇に立って、教室全体に向かって話したら、みんなは俺と志鳥くんがこんなプロジェクトをやっていたのがかなり意外らしくて、おもしろがる顔や、いろいろ言いたいことがあるような顔でこっちを見ていた。実際、興味を持ってくれた渡貫さんがあとで質問しにきてくれて、もっと詳しく説明したりもした。

でもとにかく、協力的なひとが多かったのは確か。だから、あ、これいいなって写真がいっぱい撮れた。いつもの授業の様子を伝えるのが目的だから、あまりにもふだんからかけ離れたテンションのショットはボツにしなきゃならなかったけど、データは消さずにぜんぶ取っておいてある。

「いいのができたなあ。せっかくだし、自分たちの手で配らないか？」完成したプリントを読んだ藤町先生に誘われて、俺と志鳥くんはこうして、説明会の会場で運営の手伝いをしている。

「学校紹介のプリントです。どうぞ」

「僕たちが作りました」

視聴覚室へ入ろうとする親子に向けて、一枚ずつ、B4用紙をふたつ折りにしたカラー印刷のプリントを手渡す。足を止めて受け取ってもらえるたび、とくと心臓が鳴る。

「ねえ、わたしももらっていい？」

横から話しかけてきたのは、中等部の制服を着た女子だった。たぶん先輩。

参加者の数より多めに刷ってもらったから問題ないし、ほしいと言っ

てくれるひとに **A** 配りたいので「どうぞ」って差し出したけど、これ、上級生が読んでもおもしろいんだろうか。作っている最中に **①** その視点はなかったの、ちよつと不安になりかけたら、プリントを熟読しながら先輩がつぶやいた。

「ほえー、すごいじゃん」

② 志鳥くんと顔を見合わせる。こくつとうなずき合う。

夏とか秋の説明会にくらべると規模は小さい、と事前に聞いていたとおり、椅子に着席して話を聞いている親子は合わせても四十人程度で、室内はゆつたりした空気だった。

まじめに耳を傾けてメモまで取っている子もいれば、まだ中学校生活に具体的なイメージがもてないのか、そもそも受験にあまり乗り気じゃないのか、違うところに視線をやっている子もいる。親の反応ばかり気にする子も。

視聴覚室の後ろの隅に立って、進行していく説明会を眺めながら、これぐらいの時期、自分は周りからどう見えてたんだろうって思う。

「では、プロジェクターを使つての説明はこのくらいにしたいと思います。観てくださってありがとうございます。このあと実際に校内をご覧いただけますので、見学を希望される方は廊下にお集まりください。在校生と教員がご案内します」

進行役の先生がマイクを通して言ったところ、すぐそばにある戸ががらつと開いて、「はい、こちらです！」とさっきの女子の先輩が廊下から **B** 手を振った。校内見学担当の二年生だったのか。一緒に回る先生は、その担任らしい。

約二十組の親子が椅子から立ちあがり、しゃべりながら **C** 戸を出ていく。空っぽになった視聴覚室と受付の片づけに人手が必要みたいだったので、俺と志鳥くんはこの場に残ることにした。

椅子を折たたんで、両脇に二脚ずつ持つて準備室に運ぼうと廊下に出たとき、ばったりひとと出くわした。髪の毛の長い女の子と、そのお母さん。

女の子と俺は身長がほぼ同じで、ともに視線がぶつかった。

「あ、すみません」とぱつとどいて廊下に出たけど、準備室に椅子を置いてまた戻ってきてても、親子はまだ近くにいた。「追いかけるから、先行って」「トイレ？　ひとりじゃ迷うでしょ」「迷わないよ、いいから行って」とかってやりとりが聞こえてくる。

足音が遠ざかっていったので、結局ふたりとも校内見学のグループを追いかけたんだろう。そう思っていたら。

③ 「……あの……」

声をかけられた気がして振り向く。

女の子がひとりで立っていた。なんだか、とても緊張した顔で。

「えっと、何か……？」

俺に用があるのかな。聞き返したら、**④** そばで作業していた志鳥くんがこっちの様子に気づいて、持つている椅子をいったん壁に立てかけた。女の子の表情が一段と強ばつたように見える。気持ちをどうにかコントロールしようとしているのか、にぎりしめた左手をわずかに開いたけど、でもまた元に戻ってしまう。つられてこっちまで緊張してくる。

右手にはきれいにたたまれた紙をにぎっていた。

カラー印刷の写真、……あ、俺たちが作ったプリントだ。質問したいことがあるのかも、学校紹介の内容について。

こういうとき、こっちからあれこれ聞くのって逆効果かな。五年生とどうやって会話したらいいのか、俺だって去年まで小学生だったはずなのに、ずいぶん違う存在って気がしてしまう。

「もしかして、『聞きたいことがまとまらない』って感じ？」

志鳥くんがことんと首を傾^{かし}げて尋^{たず}ねた。

それが助け舟^{ぶね}になったみたいで、女の子がはっとした顔になって、わずかにうなずいた。そして、すごく迷いながらうに唇^{くちびる}を動かした。

「あの……。学校、好きですか？」

ものすごくストレートな問いかけが飛んできて、⑤「瞬^{いつしゆん}杳^{ぼう}然^{ぜん}としてしまった。」

女の子は、自分で自分に勢いをつけるみたいに、右手を胸の前にぐっと持ちあげた。

「このプリント、読んで楽しかったです。だけど……っていうか、だからっていうか……本当にみんなこうなのかなって、知りたくなって」必死にことばを組み立てながら、俺を見つめる女の子の目は真剣^{しんけん}そのものだった。

さあっと血の気が引いていくような、むしろ沸騰^{ふっとう}していくような、めちゃくちゃな感覚に襲^{おそ}われた。いろんなことがあつけなく、ぶわりとよみがえってくる。

志望校を決めた自分。

合格を信じてがんばっていた自分。

不合格によって居場所を失った自分。

見たいものしかずっと見てなかった自分。

今、ここにいる自分。

—— 一日一日を大切にしてほしいの。

親から言われたことを完全に飲みこめたわけじゃない。その考えを自分のものにするには、もう少し時間がかかりそう。

だけどそもそも、まるごと納得^{なつとく}しなくてもいいのかもしれないって、最近思うようになったんだ。別の考えをもった、別の人間同士なんだし、

ただなぞる必要はないんじゃないかって。

だから何度もまばたきをして、こくと息をのんで、びくびくしながら話します。

「好きか嫌^{きら}いか決めるのは、……ちよつと俺にはまだ、難しいんですけど。選んだものが正解かどうかって、よくわかんないし……」

やっぱり自信なんてなかなかもてるものじゃない。足もとはいつまで経^たってもぬかるんでいて、踏^ふみ出すのが怖^{こわ}くて。だとしても、自分がここに立っているのは確かだから。

この一瞬を大事にする。

いつかはわからないけど、いつか、ああこういうことなのかなあ、って感じてみたい。

「でも卒業するときに、『楽しかった』って感じられたらいいな、って、思います」

これが俺の今の精いっぱい^{せい}の答え。

しばらく出したら、あまりにも正直にしゃべりすぎた気がして、身体^{からだ}がふわふわしてきた。なんとなく隣の志鳥^{とまり}くんの顔を確かめる。

志鳥くんは俺を見つめ返したあと、女の子に向かってあっさり言う。

「僕はこの学校、好きです。友だちができたから」

面喰^{めんく}らって、いよいよ杳然^{ぼうぜん}と突^つ立^たっている俺と、まったく平気そうな志鳥くんに対し、女の子はぺこりと頭を下げる。

「変なこと聞いちゃって、ごめんなさい。でも、答えてくれてうれしかったです！」

ぱたぱたってスリッパの足音が、廊下の角に消えていく。

⑥ 校内見学のグループに追いつこうとして駆^かけていくその音には、もう緊張なんてどこにもなくて、なんだか楽しそうにさえ聞こえた。

(眞島^{ましま}めいり『バスを降りたら』による)

問 1 A C に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-------|
| ア | A | がんがん | B | ぐるぐる | C | こそこそと |
| イ | A | ばらばら | B | ちらちら | C | こそぞと |
| ウ | A | どんどん | B | ひらひら | C | ぞろぞろと |
| エ | A | せかせか | B | ゆらゆら | C | ずらずらと |

問 2 ① その視点はなかった とありますが、「その視点」とはどのようなものですか。その内容を説明した次の文の（Ⅰ）・（Ⅱ）に入る表現を、本文中から指定の字数でぬき出しなさい。

清瑛学園にすでに通っている（Ⅰ 十三字）と感じる（Ⅱ 九字） になっているかどうかという視点。

問 3 ② 志鳥くんと顔を見合わせる。こくつとうなずき合う とありますが、このときの「俺」と「志鳥くん」の気持ちとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び記号で答えなさい。

- ア プリントが小学生向けの内容になっていることがわかって、安心して
イ 説明会で配るプリントを先輩にほめられて、手ごたえを感じている。
ウ これからも二人で何か作れるのではないかと、前向きになっている。
エ 初めての共同作業がうまくいき、お互いの友情を確かめ合っている。

問 4 ③ 「……あの……」 とありますが、このときの「女の子」はどのような気持ちですか。くわしく説明しなさい。

問5 ④ そばで作業していた志鳥くんがこっちの様子に気づいて、持っている椅子をいったん壁に立てかけた。とありますが、このときの「志鳥くん」の様子の説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び記号で答えなさい。

ア 「俺」が女の子とうまく話せないことを見こして、自分が質問に答えなければいけないと考えている。

イ 自分が説明会に参加したときのことを思い出して、女の子の緊張をやわらげてあげようと考えている。

ウ 自分も小学生に質問したかったことを思い出して、うまく聞きたいことを引き出そうと考えている。

エ 「俺」だけで女の子の対応に困っているようであれば、自分も声をかけて助けに入ろうと考えている。

問6 ⑤ 「瞬然」としてしまった。とありますが、「俺」がそのような状態になったのはなぜですか。その理由をくわしく説明しなさい。

問7 ⑥ 校内見学のグループに追いつこうとして駆けていくその音には、もう緊張なんてどこにもなくて、なんだか楽しそう。とありますが、「女の子」が「楽しそうに」駆けていったのはなぜだと考えられますか。その理由をくわしく説明しなさい。

問8 次の会話文は、この小説を読んだ生徒たちと先生が、「俺」の人物像について話しているものです。(Ⅰ)～(Ⅴ)に入る表現を、本文中から指定の字数でぬき出しなさい。

先生 「俺」は「選んだものが正解かわからない」と言うなど、
(Ⅰ 二字) がなさそうですね。

生徒A どうやら「俺」は志望校の(Ⅱ 十四字)と感じていたようです。そのことで(Ⅰ)をなくしたんですね。

生徒B でも、この学校で過ごす時間を(Ⅲ 五字)ことでいっつか一歩を踏み出そうとしているみたいです。少しずつ変化している自分を感じているんだと思います。

先生 志鳥くんとやりとりからどのような印象を受けましたか。

生徒A 「俺」は志鳥くんが「(Ⅳ 四字)」と率直に言ったことにおどろいています。志鳥くんは(Ⅴ 五字)様子です。対照的でおもしろいと思います。

生徒B 確かにそうですね。でも、「俺」は悩みながらも、しっかりと自分で考えて答えを出そうとする、まじめな人物だと思います。

第二問 次の各問いに答えなさい。

問1 次の各文において、カタカナの部分は漢字に直し、――線部のことばはその読みを答えなさい。

- ① ユウビン切手を買いに行く。
- ② ヒゲキ的な結末をむかえた。
- ③ 番組のシュウロクを見学する。
- ④ 冷たい水を頭からアびる。
- ⑤ 友だちを自宅にマネく。
- ⑥ 臨海学校に参加する。
- ⑦ 身の潔白を自ら証明する。
- ⑧ 一人で留守番をする。
- ⑨ 体調をよい状態に保つ。
- ⑩ 細かい説明を省く。

問2 次の①～③の各文の□で囲まれた言葉がかかっている部分を、――線部ア～オからそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

① ア あなたが もし イ それを ウ のぞむなら エ 私も オ 協力しよう。

② 庭では ア さまざまな イ 植物が ウ 美しい エ 花を オ さかせた。

③ ア もう イ 二度と ウ 言わない、 エ 君が オ そんなに おこるなら。

問3 次の①・②の各組の□に共通して入る漢字一字をそれぞれ考えて答えなさい。

① □ が痛い □ が早い □ をすます

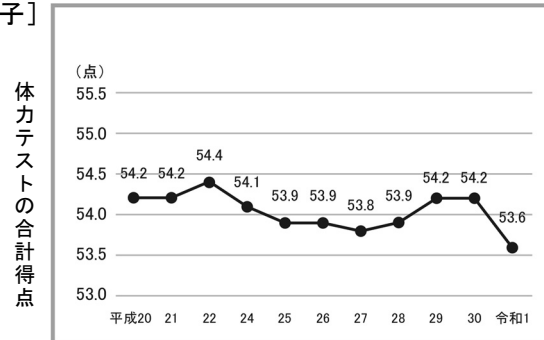
② □ を差す □ に流す □ を向ける

第三問

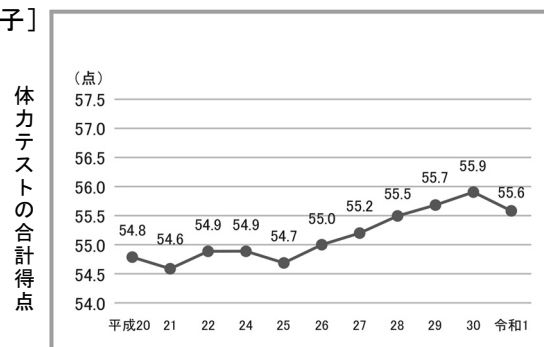
次の資料Ⅰ・Ⅱは小学生の「体力テストの合計得点の経年変化」と「1日のスクリーンタイム（スマートフォン、タブレット、ゲーム機等の使用時間）」と体力テストの合計得点との関係」について調べたものです。資料を見て、後の問いに答えなさい。

【資料Ⅰ】体力テストの合計得点の経年変化

[男子]

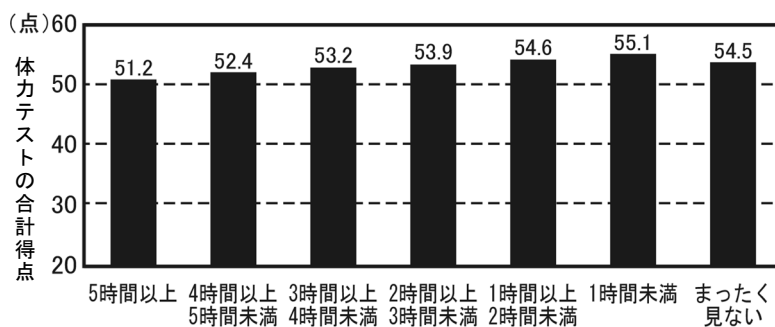


[女子]



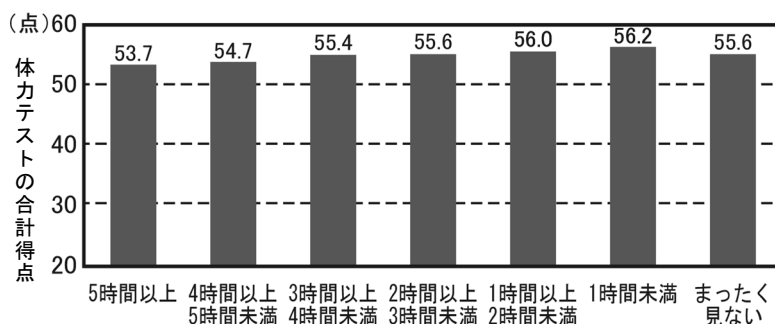
【資料Ⅱ】1日のスクリーンタイムと体力テストの合計得点との関係

[男子]



1日のスクリーンタイム

[女子]



1日のスクリーンタイム

スポーツ庁「令和1年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」より作成

問1 資料から読み取れる内容として正しいものには○、まちがっているものには×をつけなさい。

ア 体力テストの合計得点は、男子の得点が平成22年度から28年度にかけて毎年、前年度より下がっており、平成29年度には上がったが、令和1年度にはまた下がっている。

イ 体力テストの合計得点は女子が男子よりも高い傾向にあり、女子は平成20年度と令和1年度を比べると得点が上がったが、男子は令和1年度に最も低くなっている。

ウ スクリーンタイムが1日1時間未満の人と5時間以上の人の得点を比べると、男女ともに5時間以上の人の方が体力テストの合計得点が低く、その差は男子の方が大きい。

エ 体力テストの合計得点は、男子が平成22年度、女子が平成30年度に最も高く、また、スマートフォンなどを「まったく見ない」人たちが男女ともに最も高い。

問2 あなたは、小学生が体力を増やすために、どのような取り組みが必要だと思いますか。資料を参考に、自身の体験をふまえて三百字程度で書きなさい。

【問題は以上で終わります。】

国語 解答用紙①

※印のらはは、記入しないこと。
句読点はすべて一字に数えること。

受 験 番 号	
得 点	
※	

小 計
※
40 点

第一問

問 8				問 7	問 6	問 5	問 4	問 3	問 2		問 1	
V	Ⅲ	Ⅱ	I	自分の変な質問に二人の先輩がまっすぐに答えてくれたことに満足し、うれしかったから。	学校紹介の内容の質問をされると思っていたが、はつきりとは答えにくい質問を率直にされたから。	エ	自分の質問したいことがうまく聞けるかどうか不安に思っている。	イ	Ⅱ	I	ウ	
平	大	不	自						学	上		
気	事	合	信			校		級				
そ	に	格	2点×5			3点		3点	紹	生	3点×2	も
う	す	に							介	が		
な	る	よ							の	読		
2点×5	Ⅳ	っ							プ	ん		
	好	て							リ	で		
	き	居							ン	も		
	で	場							ト	お		
	す	所			し							
		を			ろ							
	失				い							
	っ											
	た		5点			5点		5点				

国語 解答用紙②

第三問

問
1

2
点
×
4

受 験 番 号
小 計
※
30 点

※	問 1	
	8 点	
	ア	×
	イ	○
	ウ	○
2 点 × 4	エ	×

問
2

問2
※
22 点

[illegible]

※原稿用紙の正しい使い方に従って書くこと。